

健康経営の取り組みについて

(2025 年 7 月現在)

健康経営の推進

ヒノキヤグループは、お客様に安心していただける「住まい」と「暮らし」をご提案する事業を中心に展開しています。社員一人ひとりが心身ともに健全であることが、お客様に満足いただけるものをご提案できる条件ではないかと考えています。

社員の健康の維持・増進により、働きがい・生きがいを保ちながら永くはたらくこと（企業エンゲージメント）につながり、組織のパフォーマンスにも大きく影響するものであるとの考え方から、ヒノキヤグループの健康経営方針を策定しています。

健康経営方針

ヒノキヤグループでは、社員が心身ともに健康・健全な状態で、仕事にも生活にも前向きに取り組めるように、一人ひとりに応じた心と体の健康の保持および働き方や職場環境の一層の向上を目指し、健康施策を実践していきます。ヒノキヤグループの社員は、日本人の暮らしの質を世界標準に向上させるために、自らを高みに極め、Z（絶）好調で働き続けられるような職場環境作りに専心します。

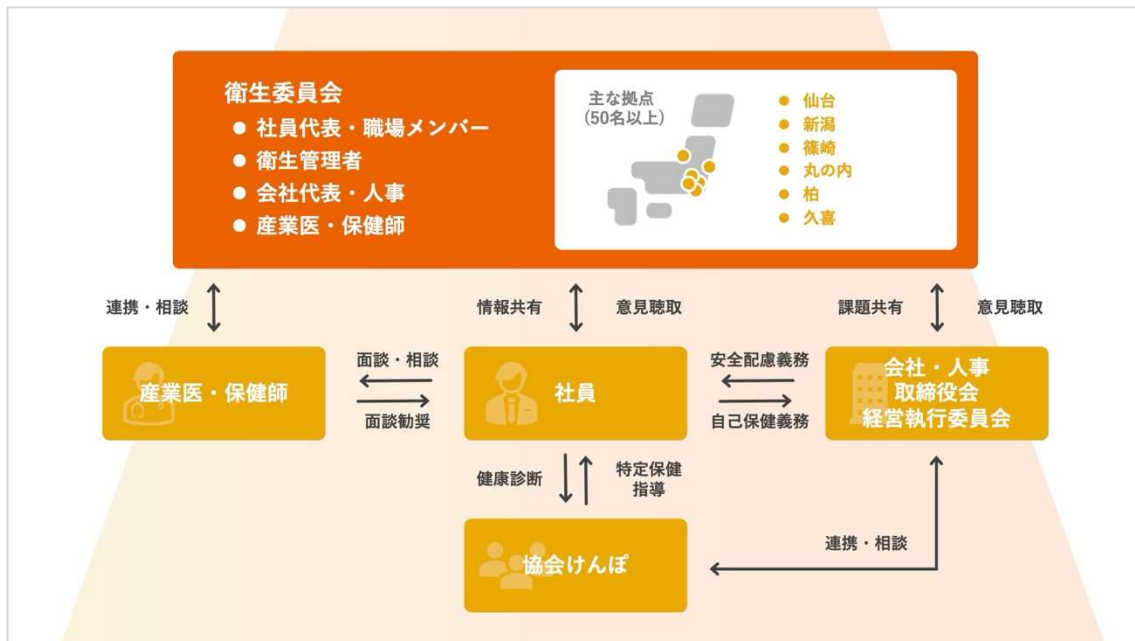
健康経営体制

ヒノキヤグループでは、すべての事業場を地域ごとに 5 つのグループに区分して、50 名以上の拠点にそれぞれに産業医を選任・配置し、各地域グループ内の 50 名未満の拠点もカバーする形を取り、本社の産業保健スタッフ（産業保健師）と一体になって、産業保健体制を進めています。

つまり、50 名未満の拠点勤務者までも、定期健診フォローアップ・長時間残業時・ストレスチェック後の事後措置などの産業医面談を随時受けることができるようになっています。健診後の有所見者に対する産業医からの受診勧奨、検査・通院後の確認、特定保健指導の勧奨も、拠点の大小にかかわらず、産業医・保健師からの働きかけを行っています。

また、傷病休業後の復職時、定年時継続雇用時、障害者社員の特別配慮事項確認時などにも、産業医・保健師には関わりを持っていただいています。

組織体制図



身体の健康に関する現況

生活習慣病リスクにおいて、高血圧、脂質、肝機能の3項目のリスクの保有率が以下のとおり、ヒノキヤグループ社員では高めになっています。

- 高血圧（上 160mmHg 以上あるいは、下 110 mmHg 以上）リスク → 社員の約半分
- 血糖値（HbA1c 10.0 以上あるいは、空腹時血糖値 200 以上）リスク → 社員の約 1/3
- 肝機能 → 社員の約 40%

また、生活習慣については、同業態全国平均および協会けんぽ東京支部平均と比べて、改善すべき社員が多くなっています。

- 食事習慣（朝食を抜くことが週3回以上ある）→ 社員の約 40%（東京支部平均約 30%）
- 運動習慣（1回30分以上の汗をかく運動を週2日以上）→ 社員の約 20%（同上約 25%）
- 喫煙習慣 → 社員の約 40%（同上 約 25%）

以上のような状況を社員の健康リテラシー向上および健康経営体制整備を踏まえ、健康経営施策（下図「健康経営マトリックス」）により、会社・社員・産業保健スタッフとの三位一体で解決してまいります。

健康経営マトリックス

社員の一人ひとりに応じた心と体の健康の維持・増進に関する健康施策に取り組むことで、健康に対する社員の意識と行動が変容していくと期待しています。

さらに、その行動変容がプレゼンティーズム（出勤していながらも、何らかの心身の健康問題によって、業務効率が落ちている状態）およびアブセンティーズム（心身の体調不良が原因による遅刻や早退、就労が困難な欠勤、休職など、業務自体が行えない状態）の解消につながっていくと考えています。

最終的には、業務効率が大きく改善し、個人や組織のパフォーマンスが向上することで、社員個人が働きがいと生きがいを実感しヒノキヤグループの社員として、自己成長しながら、永く働きたいと感じ続けるという好循環が達成できると信じています。

健康経営マトリックス

